

君津市「文化のまちづくり市税1%支援事業」

「新たな貞元地区文化の創造」

ていげん
貞元まちづくり

No 8

発行 平成24年 3月31日

編集 貞元地域まちづくり推進委員会

君津市上湯江 1287-1

貞元コミュニティセンター内

TEL 0439-52-8030

23年度の活動報告

今年度は、いままでの実績に加え「自然と緑の中でふれあいができるまちづくり」をメインテーマに「江川を中心とした散策路の整備」、ワークショップのまとめ（平成22年11月7日）の中から優先度の高いものから事業を展開してきました。*年度前半は、会報No7参照

貞元ブランドを創る ー産業部会ー

貞元ブランドを創る活動委員14名は、貞元まちづくり推進委員会の産業部会から自立し、「仮称貞元ふるさと産品育成協議会」を結成、当面「栄養価のあるモチ」の製品化して、「君津市ふるさと産品育成会奨励品の認証マーク」をいただくことを目標に活動を展開しています。

なお、もったいない活かそう地域資源運動は継続して実施します。また、新たに「緑のカーテンづくり」を実施する計画です。

江川花の道 ー観光・交流部会ー

ヒガン花は、9月初旬に最終的な草刈りをして彼岸には花が咲き、比較的管理しやすいことが実証されたので、植栽場所について地元と協議しながら拡大することとしました。

小香から郡ダム間は、水仙の拡大とともに、ヒガン花も植えたいと考えています。

市民農園

平成21、22年に、半澤忠夫（やましょう）鈴木文男（文やっこ農園）さんの市民農園開設をPRしました。現在、拡張（半澤）を含め全数契約、鈴木さんも拡張を計画中です。

市民農園は需要があることと、先駆けて開園したお二人のご労苦へのねぎらいと、今後、開設する人へのご支援をお願いしたいと思います。

* 年度報告の詳細は、4頁活動概要版 参照

講演 広島県安芸高田市における旧村単位の取組み外 ー地域づくりー

アドバイザー 齋藤雪彦先生

安芸高田市旧川根村の主な産業は、農業と林業で19集落、1945年頃2000人が現在は549人（238世帯）に減少、高齢化率46%になっている。1972年に活性化、「農村での生き方を考えること」を目的に川根振興協議会が設立された。

○主な活動

- ① 廃校中学校⇒宿泊施設
- ② J Aガソリンスタンド撤退⇒住民が出資・経営（高齢者への宅配サービス）
- ③ 公共バス撤退⇒住民が運営（もやい便）
- ④ お好み住宅⇒村外転入者向け住宅の建設
18世帯76人入居、U、Iターンが各半分
- ⑤ 高齢者のための食事会、訪問活動の開催、給食サービス、風呂無料開放

*お互いさま隊⇒民生委員をサポートする人材を「お互いさま隊」として組織、高齢者に対するよりきめ細かいサポート

*一人一日一円貯金

各家庭・事業所に募金を入れる竹筒が置かれ、お金は、高齢者への配食サービス、単身世帯の高齢者への声かけに利用

*まごころメール

地元の小学生から、地元の高齢者に向けて、月1回手紙を出している。高齢者は「自分は一人でない、地域で生きていることの実感。小学生は文章能力を高める効果がある。また、年1回高齢者と小学生が対面する場があり、感動、涙を流すことも多いという。

- ⑥ 「農事法人かわね」の設立（約60ha/80ha）
- ⑦ ほたるin川根「農家庭先味めぐり」
4~5000人訪れる、地域の人も出店
- ⑧ 川根もやい塾
都市の子どもと地域の人が自然や昔ながら

(2)

の知恵を学ぶ。

- ⑨ ラベンダーの川土手の植え付け（フラワーロード）、ラベンダーグッズの販売

○活動の特徴

地域で「自分たちがどう生きるか、それがないと子どもは帰ってこない」を追求

- ① 新しい制度（住民から提案）、事業の協働（自治体も住民も出資）、市から振興協議会へは数十万円の使い道自由な交付金
 - ・住民と行政の対話の場を設けた。
 - ・市職員が住民として地域に関わる。
- ② 地域経済より住民サービス・福祉、都市民のため、それ以上に住民が楽しむための交流
- ③ 旧村単位で動く、会長は村長？、旧村でまとめ、旧村で動く。
- ④ 自治体にとっても、広域自治困難化、地域自立の契機、振興協議会制⇒安芸高田市全域に、東広島市、三次市等へ波及

●東広島市小田地域

13 集落、236 戸「うち農家 167 戸」681 人

平成 15 年自治組織「共和の郷・おだ」（小さな役場）設立（1 戸当たり 2500 円＋市の補助金 50 万円）、平成 18 年農事組合法人「ふぁーむ・おだ」設立（JA の空き事務所利用）

128 戸、82ha/127ha、6 人雇用、「集落営農」畜産農家と連携した有機肥料、売上約 7000 万円（借地料：年 2.2 万円/反＋水管理費年 2000 円）米、大豆、そば、とうがらし、南瓜生産

「苦農を残すか、楽農を残すか」

●北海道新得町ファームイン（農家民宿）

リフォーム代 500 万円、年 200～500 人（単価 7500 円）7 割リピーター 純益年 200 万円 小投資、小リターン

川根の農事法人 年金＋30 万円 ある物を活用、数百万円でいろいろなことができる。

事業運営の見直しについて

まちづくり会報 7 号（23.12.1）で、見直し概要を報告しましたが、補足する形で先月アンケートを実施しましたので、その結果と 24 年度の活動内容を踏まえ、また、関係団体（市役所、自治会連協、貞元地域コミュニティ活動推進委員会、貞元小学校等）のご支援を含めた事業運営の見直しを図りたいと思います。

余暇の実態と地域コミュニティの再生に関する報告書

—有縁社会の再構築に向けて—

アドバイザーの齊藤雪彦先生が、平成 22 年度「勤労者男性（退職者含む）の余暇に関するアンケート調査」を実施、その結果は会報 6 号（23.3.17）で報告しましたが、その後、君津市周南・中野地域、松戸市、静岡市で同様の調査をされました。

この種の調査で全国にまたがり比較調査した例はないようで、貴重な報告書をご寄贈いただきました。報告書は

序論：問題意識と研究の背景

I 部：都市近郊農村地域における余暇の個人化・孤立

—君津市貞元地域を事例として

II 部：地域間の比較研究

—都市近郊農村地域「君津市周南地域」—

—地方都市中心市街地「君津市中野地域」—

—大都市市街地「松戸市三矢小台地域」—

—中山間区域「静岡市梅ヶ島地域」—

で構成されています。

今後、事業化される「地域コミュニティづくり」「地域防災の行動指針の作成」等に活用が期待されます。

報告書は、貞元コミセンで保管していますのでご覧ください。

地域計画

●六手・貞元線全線開通

小糸地区の泉を起点とし、全長 6,100m の内、残り 1.6km が平成 23 年 12 月 22 日開通しました。ウォーキングしたくなるようなポケットパークも 12 箇所設置され、季節の花が皆様をお迎えしています。

ポケットパーク、味楽園さだもと店、「江川花の道」周辺の農道、遠くは郡ダム、三舟山が形成する回遊導線をお楽しみください。

●JA きみつ味楽園さだもと店

給油所「ジャスポート貞元」を併設した同店は、3 月 8 日開店しました。

また、JA 婦人部（農事組合法人「味彩だより」）が軽食コーナーを開店しました。

地域の活性化、雇用拡大がなされ繁栄することを願い、支援していききたいと思います。

●本郷バイパス

市道君津駅前線終点の下湯江から本郷に至る県道のバイパス工事は、用地測量が完了し予算次第ですが、24 年度から用地買収、工事着手が計画されています。

下湯江地区内の交通事情が悪くなっていることから早期完成が望まれます。